

堀口正弘教授退任記念号の発刊に寄せて

堀口先生は、1964年（昭和39年）3月に東京教育大学体育学部体育学科をご卒業後、同年4月に本学に赴任されました。この1964年の10月には、東京オリンピックが開催されるというまさにその年から半世紀近くの間、本学の「体育実技」・「スポーツ」等の実技科目と「スポーツの科学」等の講義科目を数多くの学生に教授されてきました。

この間にカリキュラム改革が何度か行われ、先生がご担当された実技科目は「体育実技」（通年科目）から「スポーツ」（半期科目）へと科目名が変更となり、また必修科目から選択科目へと履修制度の位置付けも変更となりました。国分寺キャンパスから武蔵村山キャンパスへ、さらには両キャンパスでの授業ということで、本学にお勤めの間の移動距離は通算するとかなり長距離になるものと思われます。

また、定年までの最後の3年間は特別スポーツ「生涯スポーツ（乗馬）」をご担当になりました。私が教務主任時代（1996年度）に特別語学と特別スポーツの制度を導入し、それがこういった形で活用されることは、当時、想像さえしておりませんでした。先生がこの特別スポーツを全学共通教育センター会議でご提案された際の書類を読み返してみますと、開講趣旨におきまして「乗馬は性別、年齢に関係なく出来るスポーツです。体のバランス感覚を重視した全身運動であり、また、相手の気持ちを酌む精神的な面も必要な乗馬は、生涯スポーツとして広く浸透するであろう。自分より何倍も大きな馬は体力や腕力では動かさせません。馬を理解し、馬に気持ちを合せて初めてコミュニケーションが取れ、そして馬をコントロールすることが出来る。馬との信頼関係が出来、こちらの意思通りに馬が動く時の喜びを学生に味わってもらいたい。受講後、大部分の学生は心の持ち方が変わると思われる。」と記されており、体を使った全身運動という意味だけではなく、精神面から鍛錬する意味も込められていることにあらためて驚かされました。常設のスポーツ科目とは異なる意味で特別スポーツが活用されることを想定していましたが、最近の学生気質を十分にお考えになったうえで、こうした深い意味を込めた授業展開をされており、今後の教員生活において大変参考になりました。

授業以外の面では、1987年度に学生部長を務められ、学生相談委員の経験も長く学生との関わりはかなり深いように思われます。こうした点からも、本学学生に今何が必要であるのか的確に分析された結果が、特別スポーツの開講に結び付いたものと想像しております。

研究面におきましては、サッカーのゲーム分析やヤングフットボーラーの活動を基にした調査などをされていました。日本サッカー協会科学調査部委員としても長年務められ、人間の行動分析に関するご研究に造詣が深いものと思われます。この研究成果の一部が本学の授業にも反映され、体を使った全身運動に加えて、精神面からの鍛錬もされていることに感銘

堀口正弘教授退任記念号の発刊に寄せて

を受けました。健全なる精神は健全なる身体に宿る，といいますが，まさにこれを実践されていたということがわかりました。

全学共通教育センター所属教員一同は，堀口正弘先生の益々のご活躍と，ご健康を心より祈念しております。

2012年9月

全学共通教育センター長 竹内秀一